ワレリー・ゲルギエフ（指揮）

Valery Gergiev, Conductor

モスクワ生まれ。レニングラード音楽院（現サンクトペテルブルク音楽院）でイリヤ・ムーシンに指揮を学ぶ。在学中にベルリンで開催されたカラヤン指揮者コンクールで最高位を獲得。1978年、24歳の若さでマリインスキー劇場のユーリ・テミルカーノフの副指揮者として採用され、トルストイの原作に基づくプロコフィエフのオペラ《戦争と平和》でデビューを飾る。20年以上前にゲルギエフがサンクトペテルブルグの歴史を誇るマリインスキー劇場の芸術監督に就任してから、劇場はロシアの重要な文化拠点となった。

ゲルギエフのミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団とのコラボレーションは2011/12のシーズンに遡る。以来、ショスタコーヴィチの全交響曲集とストラヴィンスキー・チクルスを同オーケストラとマリインスキー歌劇場管弦楽団の両方で演奏している。

ゲルギエフはがミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者に就任したのは、2015/16シーズンから。同団とは数多くの欧州主要都市、日本、中国、韓国、台湾、米国などをツアーしてきた。ゲルギエフが指揮するショスタコーヴィチ、ストラヴィンスキー、プロコフィエフ、ラフマニノフなどの交響曲のチクルスは特に注目され、他には新企画のミュンヘン・フィルが主催する音楽祭『MPHIL360°』が大きな話題となる。コンサートの多くはライブ・ストリーミングやテレビ、ラジオで放送。2016年9月には、初めてオーケストラ独自のレーベル『MPHIL』でミュンヘン・フィルの活動を収録したCDがリリースされた。2017年から19年にかけて、同団とはブルックナーの交響曲全集を、作曲家が眠る聖フローリアン修道院（リンツ）で収録。全集ボックスセットは2020年秋にリリースされた。

2018年10月13日にゲルギエフはミュンヘン・フィルの創立125周年を記念し、オーケストラの本拠地、ガスタイクのフィルハーモニーホールでストラヴィンスキーの「詩篇交響曲」とマーラー「交響曲第８番《千人の交響曲》」を指揮した。